



開催概要

日時：2016 年 11 月 22 日（火）13:30～16:30（13:10 開場）

場所：東京ウィメンズプラザ ホール

主催：持続可能な社会と自然エネルギー研究会

（事務局：認定 NPO 法人環境エネルギー政策研究所&公益財団法人自然エネルギー財団）

協力：公益財団法人日本自然保護協会、公益財団法人日本野鳥の会、公益財団法人 WWF ジャパン、

特定非営利活動法人地熱情報研究所、特定非営利活動法人バイオマス産業社会ネットワーク他

開催趣旨

世界各地で自然エネルギーの普及が加速する一方で、導入をめぐるさまざまな社会的課題が浮上しつつあります。例えば、生物、生態系、景観等への影響に対する懸念、地域の農林漁業や産業との共生、資源利用の権利や土地利用計画との整合性など、ステークホルダーによる合意形成と国や自治体による制度・政策形成の両面で丁寧な対応が必要となります。

このフォーラムでは、このような自然エネルギーの社会的合意形成について、国際的な研究動向や取り組みを共有しつつ、多様なステークホルダーによる対話を通じて、より望ましい自然エネルギー普及のあり方を探ります。

プログラム（※資料と動画は後日、環境エネルギー政策研究所のホームページで公開予定です。）

13:30	開会 開催趣旨、イントロダクション	古屋将太（環境エネルギー政策研究所 研究員） 分山達也（自然エネルギー財団 上級研究員）
13:50	基調講演： 自然エネルギーの社会的応答	
	英国での自然エネルギーと社会的応答	パトリック・ディバイン・ライト （エグゼター大学人文地理学教授）
	ドイツでの自然エネルギーと自然保護	ミヒャエル・クリーガー（自然保護とエネルギー転換のための専門センター（KNE））
14:50	休憩	
15:00	フォーラム：自然エネルギーを巡る空間・土地利用のリスクコミュニケーションとガバナンス	
	飯田哲也（環境エネルギー政策研究所 所長、コーディネーター）	
	武本俊彦（環境エネルギー政策研究所 シニアフェロー）	
	浦達也（日本野鳥の会 主任研究員）	
	パトリック・ディバイン・ライト	
	ミヒャエル・クリーガー	
16:20	まとめ	
16:30	閉会	

登壇者紹介



パトリック・ディバイン・ライト（Dr. Patrick Devine-Wright）
エグゼター大学人文地理学教授、英国

ESRC 研究プログラムで、NIMBY 枠組みの限界を超えた多様で統合的な研究を提起し、社会心理学のアプローチで社会的合意の研究領域を切り拓いた。専門は、人文地理学、環境心理学など。近著に Renewable Energy and the Public(2014, Routledge)



ミヒャエル・クリーガー（Michael Krieger）
自然保護とエネルギー転換のための専門センター（KNE）、ドイツ

自然保護とエネルギー転換のための専門センター(KNE) は 2016 年 1 月に設立された機関で、議論の場を提供するとともに紛争を回避することによって、自然保護を重視した自然エネルギーの拡大を支援することを目的としている。



飯田 哲也
認定 NPO 法人 環境エネルギー政策研究所 所長

1959 年山口県生まれ。京都大学大学院工学研究科原子核工学専攻修了。東京大学先端科学技術研究センター博士課程単位取得満期退学。原子力産業や原子力安全規制などに従事後、「原子力ムラ」を脱出して北欧での研究活動や非営利活動を経て現職。自然エネルギー政策では国内外で第一人者として知られる。



武本 俊彦
認定 NPO 法人 環境エネルギー政策研究所 シニアフェロー、食と農の政策アナリスト

1976 年に農林省に入省。ウルグアイラウンド農業交渉（米・小麦等）、食管理法廃止・食糧法制定、BSE 問題への対応等の後、内閣官房内閣審議官、農林水産政策研究所長を経て、2013 年 3 月退職。現在は、現職の他に、千葉大学園芸学部非常勤講師などを務める。著書に『儲かる農業論』（集英社新書、共著）など。



浦 達也
公益財団法人 日本野鳥の会 主任研究員

学生時代は北海道でオオジシギの繁殖生態を研究。2005 年に野鳥の会へ入局、Strix の編集や絶滅危惧種の保護活動を担当。現在は風力発電が野鳥に与える影響の調査研究や国内外の情報収集とその普及、政策提言活動などを行い、風力発電と野鳥の分野のスペシャリスト。



古屋 将太
認定 NPO 法人 環境エネルギー政策研究所 研究員

デンマーク・オールボー大学大学院で博士号（Community Energy Planning）を取得。地域参加型の自然エネルギーにおける政策形成、事業開発、合意形成支援に取り組んでいる。著書に『コミュニティ発電所』（ポプラ社）。



分山 達也
公益財団法人 自然エネルギー財団 上級研究員

博士（工学）。AMPL（数理計画言語）を用いて系統統合を考慮した日本の自然エネルギーシナリオの分析を担当。専門分野は、資源工学、地熱発電と地理情報システム（GIS）。これまでに、GIS を用いて、日本の自然エネルギーポテンシャル評価や、風力発電のゾーニングの研究に従事した。